



Zがアルファベットの最後に追いやられた理由

出番が少ない、ちょっと不遇なZ

アルファベットの中でも、Zほど「日陰者」といえる文字はないかもしれません。英語で最も使われない文字はZであり、ある調査によれば、英語でよく使われる六千数百語の単語のうち、Zを含むものはたった36語(最も頻度の高い単語はsize)しかないそうです。

登場頻度が極めて低いZの、アルファベットの順番は一番後ろ。Zがなぜ最後尾にあるのかという疑問に答えるには、歴史をさかのぼる必要があります。

ギリシア語では6番めだったZが、なぜ最後尾に？

もともとZは、ギリシア語のアルファベット(数学でおなじみの α 〈アルファ〉、 β 〈ベータ〉、 γ 〈ガンマ〉…)の6番めに位置する、ζ(ゼータ)という文字でした。それが変形してラテン語に取り入れられる過程で、ラテン語にはZの音が存在しなかったため、Zは一度「文字セット」から除外されます。

ところが時代が進み、ギリシア語から単語を借用するようになると、Zの必要性が出てきます。そしてZは復活するのですが、すでにラテン語のアルファベットの並び順は固定されていたため、最後尾に追加される形になりました。

Sに仕事を奪われた？ 英語のZ事情

Zが活躍の機会を失っている要因のひとつに「英語ではZの音がSで代用されがち」という点が挙げられます。例えば、名詞のhouseは動詞になると発音がにぎって「ハウズ」となるにもかかわらず、綴りはSを使ったhouseのままで、Zは使われていません。このようにしてZは活躍の機会が少ないのです。

🕒 アメリカとイギリスで異なるZの扱い

★単語の綴りが異なる。

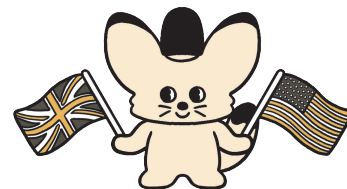
アメリカ英語 organization (組織、団体)

イギリス英語 organisation (組織、団体)

★Zの文字の読み方も異なる

アメリカ英語 [zɪ] (ズィー)

イギリス英語 [zéd] (ゼッド)



後にギリシア語からの借用で復活したZ。でも入り込める場所がなく最後尾に落ち着いたんですね。

ラテン語とギリシア語に翻弄されたZの生涯を知って、なんだかいとおしくなってきました。

